

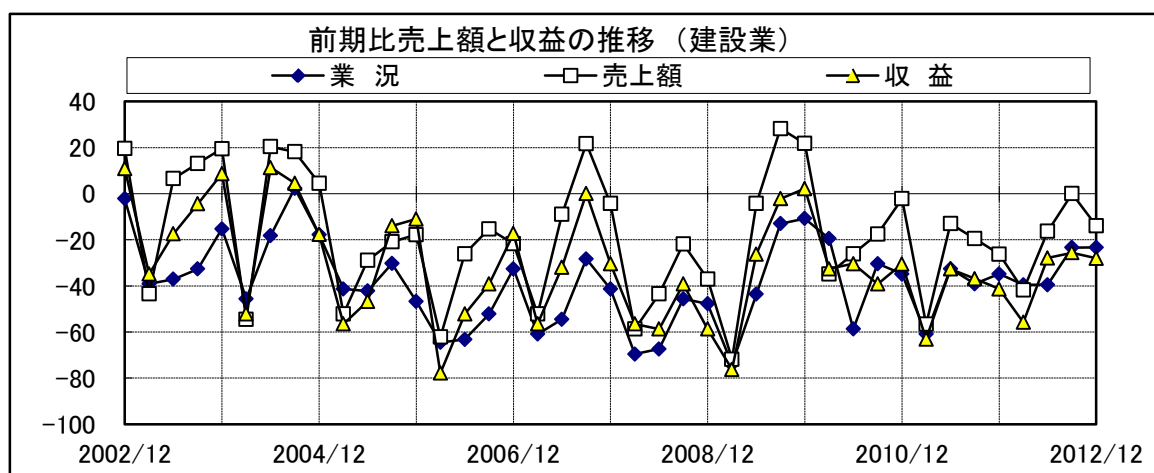
建設業 43 企業（回答率 100.00%）の調査結果です

□ 景 況

DI 値 の推移	4～6 月 期実績	7～9 月 期実績	10～12 月 期実績	1～3 月 期見通し
業 況	-39.5	-23.4	-23.3	-58.1
売上額	-16.3	0.0	-13.9	-62.8
収 益	-27.9	-25.6	-28.0	-58.1

今期の業況判断DIは $\Delta 23.3$ と、前期比0.1ポイント上昇、ほぼ横ばいの値となった。地区別にみると、浦河、広尾地区で上昇、三石、えりも地区で下降、静内、様似地区は横ばいとなっている。

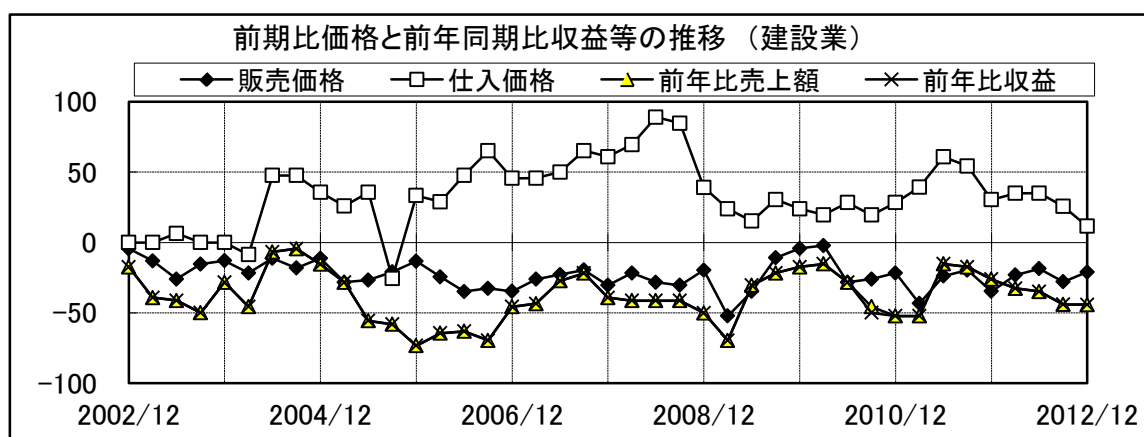
売上額判断DIは前期ゼロ水準から13.9ポイント下降した。収益判断DIは $\Delta 28.0$ と、前期比2.4ポイント下降した。



□ 価格面の動き・前年同期に比した動き

DI 値 の推移	4～6 月 期実績	7～9 月 期実績	10～12 月 期実績	1～3 月 期見通し
請負価格	-18.6	-27.9	-21.0	-34.8
仕入価格	35.0	25.6	11.6	11.7

請負価格判断DIは $\Delta 21.0$ と、前期比6.9ポイント上昇し、価格低下基調を弱めている。仕入価格判断DIは11.6と、前期比14.0ポイントの下降、価格上昇基調を弱めている。



□ 雇用面の動き

DI 値 の推移	4～6 月 期実績	7～9 月 期実績	10～12 月 期実績	1～3 月 期見通し
残業時間	-18.6	-18.6	-16.3	-25.7
人手状況	11.7	0.0	-14.2	7.1

残業時間判断DIは $\Delta 16.3$ と、残業時間が減少したとする割合は2.3ポイント減少した。人手過不足判断DIは、前期のゼロ水準から14.2ポイント下降し、人手不足「超」となった。

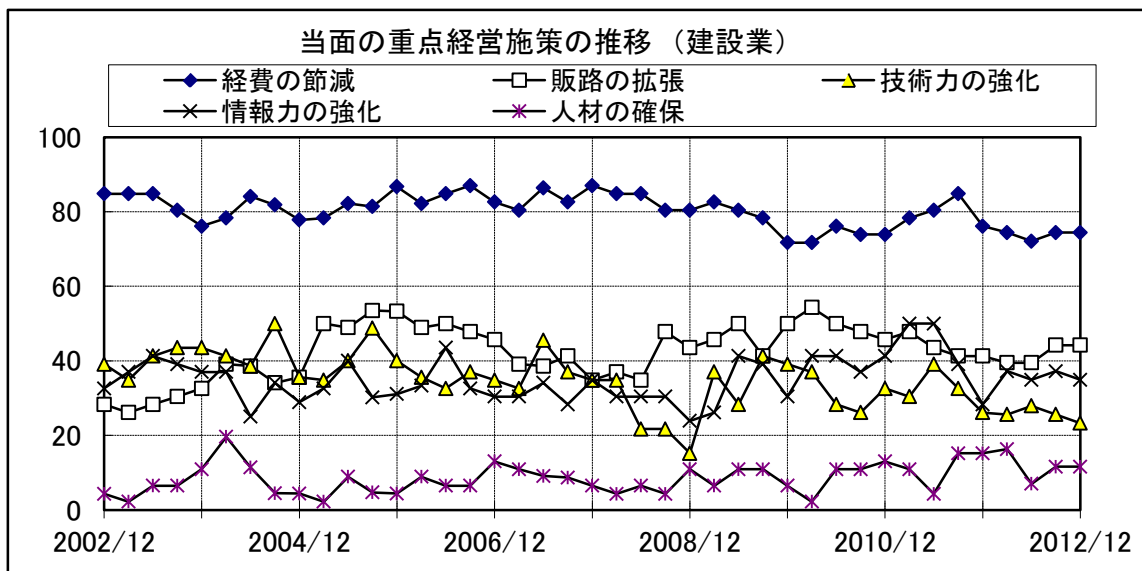
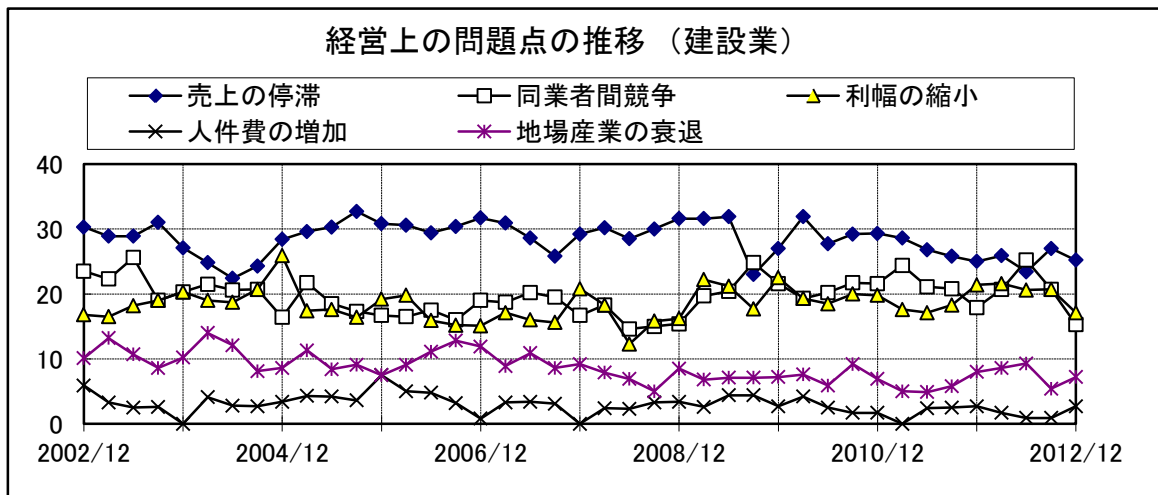
□ 設備投資の動き

設備投資の充足感を示すD Iは、ゼロ水準から△11.6ポイントへと下降した。
設備投資実施企業割合は11.6%と、前期20.9%比9.3ポイント下降、前期の9社に対し5社の実施となった。来期の設備投資は、当期比3社減の2社の予定となっている。

□ 経営上の問題点と重点経営施策

経営上の問題点は、「売上の停滞減少」をトップに挙げ25.2%、次いで「利幅の縮小」17.1%、「同業者との競争」15.3%、「材料価格の上昇」9.0%、「天候の不順」、「地場産業の衰退」が同率の7.2%で続いている。

重点経営施策では、「経費の節減」をトップに挙げ74.4%、次いで「販路の拡張」44.2%、「情報力の強化」34.9%、「技術力の上昇」23.3%の順となっている。



来期の見通し

来期の予想業況判断D Iは△58.1と、今期比34.8ポイントの下降見通しとなっている。
予想売上額判断D Iは△62.8と、今期比48.9ポイントの下降を見通している。
予想収益判断D Iは△58.1と、今期比30.1ポイントの下降を見通している。
予想請負価格判断D Iは△34.8と、今期比13.8ポイントの下降を見通している。
予想仕入価格判断D Iは11.7と、今期11.6比ほぼ横ばいの値を見通している。

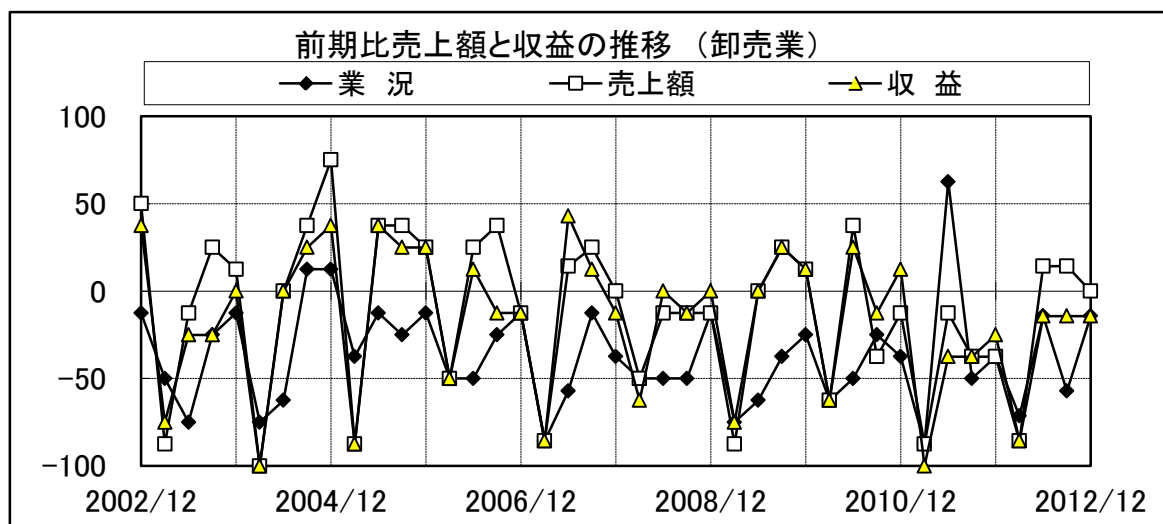
卸売業 7企業（回答率 100.0%）の調査結果です

□ 景 況

DI 値 の推移	4～6月 期実績	7～9月 期実績	10～12月 期実績	1～3月 期見通し
業 況	-14.3	-57.2	-14.3	-71.5
売上額	14.2	14.3	0.0	-71.5
収 益	-14.3	-14.3	-14.3	-57.2

今期の業況判断DIは△14.3と、前期比 42.9 ポイントの上昇となった。地区別にみると、浦河、三石、様似地区で上昇、静内地区で横ばいとなっている。

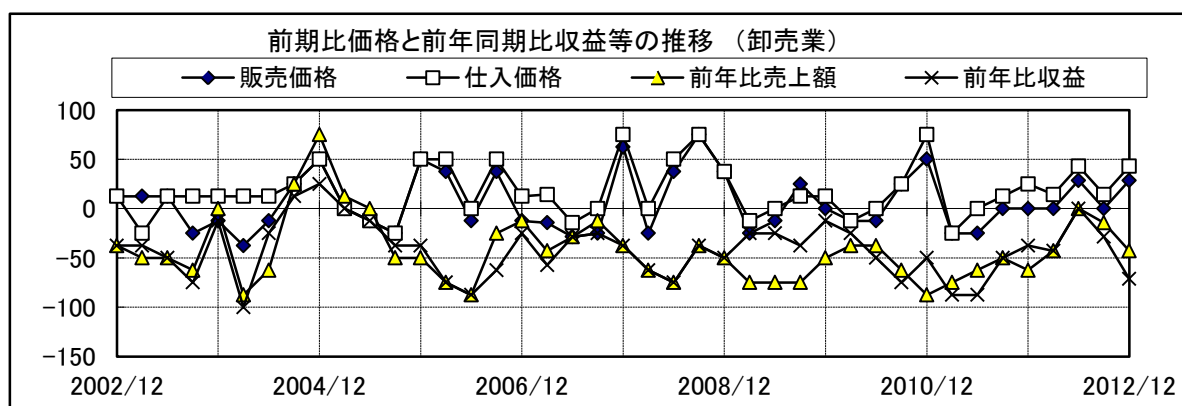
売上額判断DIは 0.0 と、前期比 14.3 ポイントの下降。収益判断DIは△14.3 で、前期比横ばいの状態が続いている。



□ 価格面の動き・前年同期に比した動き

DI 値 の推移	4～6月 期実績	7～9月 期実績	10～12月 期実績	1～3月 期見通し
販売価格	28.6	0.0	28.6	-42.9
仕入価格	42.9	14.3	42.9	-28.6

販売価格判断DIは、前期ゼロ水準から 28.6 ポイント上昇した。仕入価格判断DI 42.9 は、前期比 28.6 ポイント上昇した。業種別にみると、水産は販売価格・仕入価格ともに上昇、食品は販売価格、仕入価格ともに横ばいとなっている。



□ 雇用面の動き

DI 値 の推移	4～6月 期実績	7～9月 期実績	10～12月 期実績	1～3月 期見通し
残業時間	0.0	14.3	0.0	-28.6
人手状況	14.3	14.3	14.3	28.6

残業時間判断DIは、残業時間が増加したとする企業割合が減少しゼロ水準となった。人手過不足判断DIは前期同値の 14.3 ポイントで変わらず、人手過剰感が続いている。

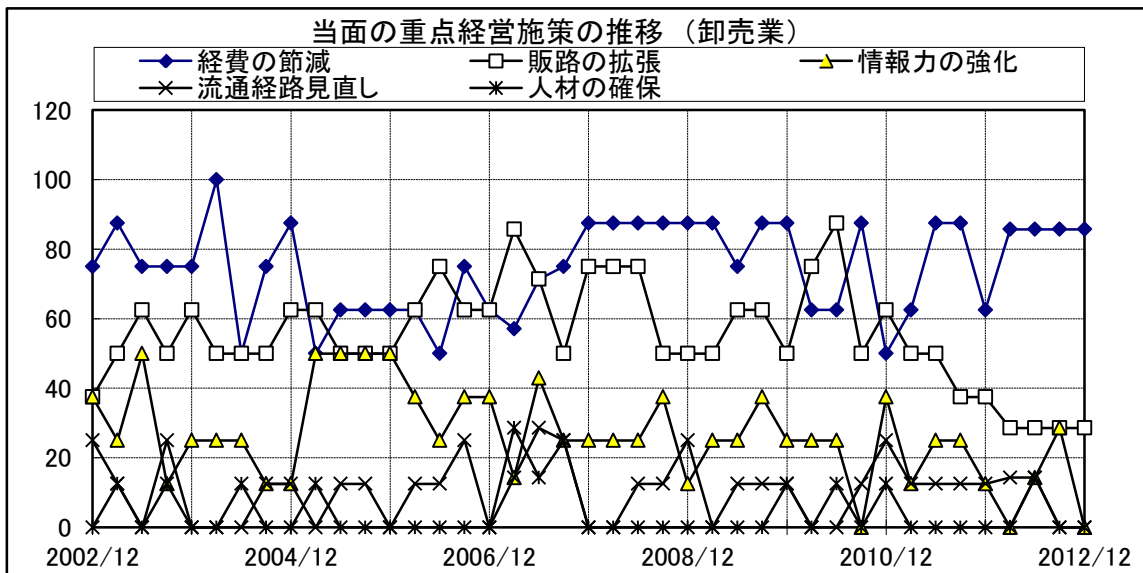
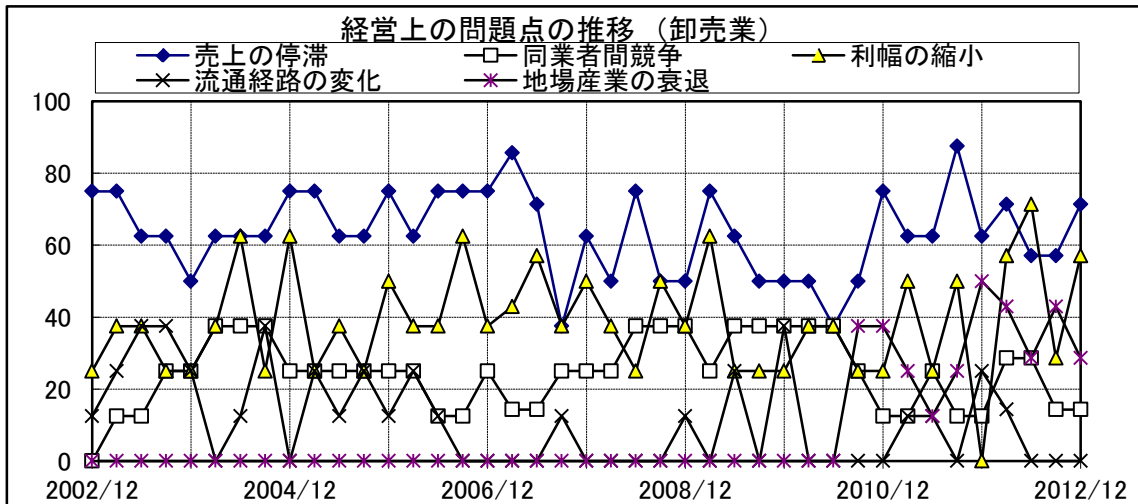
□ 設備投資の動き

設備投資の充足感を示すD Iは、14.3で前期ゼロ水準から上昇した。設備投資実施企業はない。また、調査先において来期の設備投資の予定もない。

□ 経営上の問題点と重点経営施策

経営上の問題点は、「売上の停滞減少」71.4%、「利幅の縮小」57.1%、「取引先の減少」42.9%、「地場産業の衰退」、「輸入製品との競合」が同じく28.6%で続いている。

重点経営施策では、「経費の節減」をトップに挙げ85.7%、次いで「販路の拡張」28.6%、品揃えを充実する」、「新事業を始める」、「教育訓練を強化」、「不動産の有効活用」が同率の14.3%となっている。



□ 来期の見通し

来期の予想業況判断D I Δ 71.5は、今期比 57.2ポイントの下降を見通している。予想売上額判断D Iは今期ゼロ水準から、 Δ 71.5と大幅な下降を見通している。予想収益判断D I Δ 57.2は、今期比 42.9ポイントの下降を見通している。

予想販売価格判断D I Δ 42.9と、予想仕入価格判断D I Δ 28.6とともに今期比 71.5ポイントの大幅な下降を見通している。